

県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立ぐんま昆虫の森
所在地	桐生市新里町鶴ヶ谷460-1
所管部局・課	教育委員会 生涯学習課

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条、群馬県立ぐんま昆虫の森の設置及び管理に関する条例

2 施設の役割

(1) 設置目的

人間にとって最も身近な生き物である昆虫を題材として、里山という空間で昆虫や小動物を見つけ、その体験を通して生命の大切さに気づき、豊かな感性を育む新しいタイプの施設にすることを目指して、ぐんま昆虫の森を整備した。

(2) 設置当初の状況

生き物の観察やふれあいを通じて自然と環境を実体験として学べ、次世代を担う子ども達が自然や環境を理解し保全する心を培うことに役立つとともに、学校教育の補完施設としても重要な役割を果たしている。

(3) 施設を取り巻く現状

「公共施設のあり方検討委員会」は、ぐんま昆虫の森は「直ちに廃止すべきとまでは言えないが、運営内容等の徹底した見直しと利用者増加の積極的な努力が強く求められる施設である」ことを骨子とする中間報告を平成20年10月30日に知事に行った。

これに基づき、4年計画により施設運営の見直しと経費の大幅な削減を行うとともに、学校利用の一層の促進や地元との連携強化を行う。

3 施設の概要

設置年月日	平成17年8月1日
敷地面積(所有者)	226,905平方メートル(群馬県)、223,853平方メートル(桐生市からの借地) 合計450,758平方メートル
主な施設(床面積、階数等)	昆虫観察館本館(延床面積5,084平方メートル、地上3階・地下1階建)、昆虫観察館別館(延床面積1,344平方メートル、地上1階・地下1階建)、食草・育成温室(延床面積537平方メートル、地上1階建)、合計(延床面積6,949平方メートル)
建設費	7,166,000千円

◇入園料・利用料等 (円)

◇利用時間(休館日)

区分	金額	【開園時間】
一般	410	○4月～10月末日:9時30分～17時 ○11月～翌3月末日:9時30分～16時30分
大学生・高校生	200	【休園日】 ○毎週月曜日(但し、月曜が祝日の場合は翌火曜日) ○年末年始(12月27日～1月5日) ○メンテナンスのための臨時休園
中学生以下	無料	

4 施設における実施事業

- フィールド
・ボランティアガイドが同行する自然観察会や昆虫観察会など
- 昆虫観察館
・常設展示に加え、企画展・季節展等
・生態温室のガイドツアー、チョウの飼育状況が観察できるバックヤードツアーなど
・昆虫の標本作り、昆虫の生態を顕微鏡などを使って学ぶ昆虫教室、昆虫ショーなど
・体験プログラムとして、ドングリなどの木の実や小枝を使った木工クラフト、竹や紙、まゆなどを使って作品を自分で作り上げるクラフトなど
・映像ホールにおいて、昆虫の生態を興味深い形で撮影したビデオ作品の上映 など

5 管理運営コストの状況

(千円)

区 分	29年度(当初予算額)	28年度(決算額)	27年度(決算額)	26年度(決算額)	25年度(決算額)
歳 入 (1)	15,969	17,872	16,461	14,774	15,321
使用料収入(入園料)	13,472	14,538	13,184	11,598	11,889
使用料収入(入園料以外)	1,528	2,216	1,977	1,641	1,649
財産売払収入	5	0	0	5	27
雑入	964	1,118	1,300	1,530	1,756
歳 出 (2)	185,578	188,836	199,211	190,781	178,540
常勤職員	85,125	83,191	83,244	82,881	78,583
非常勤職員	23,355	21,443	22,867	23,328	19,987
管理運営費	66,444	72,555	82,386	73,096	68,856
事業費	10,654	11,647	10,714	11,476	11,114
歳入・歳出の差額(1)-(2)	▲ 169,609	▲ 170,964	▲ 182,750	▲ 176,007	▲ 163,219
歳入・歳出の主な増減理由					

6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

	29年度	28年度	27年度	26年度	25年度
常勤職員	10	10	10	10	10
臨時・非常勤職員	17	17	17	14	9
合 計	27	27	27	24	19

7 施設利用の状況

区 分	29年度※	28年度	27年度	26年度	25年度
年間利用者総数(人)	120,000	117,950	112,042	99,838	103,256
有料利用者数(人)	40,000	37,986	37,451	31,031	30,812
無料利用者数(人)	80,000	79,964	74,591	68,807	72,444
目標利用者数(人)	97,500	97,500	97,500	97,500	97,500
利用者の主な増減理由	ホームページリニューアル(H28)、園内紹介動画の作成(H28)等により、きめ細かい情報提供を実施した。 学校利用説明会や下見の充実を図り、学校施設との連携を更に強化し、理科学習の補完施設としての充実を図った。				

※ 見込み数又は途中実績を記入

8 必要性及び管理運営方法の方向性

区分	内容
施設の必要性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県の施設としてこのまま存続 <input type="checkbox"/> 県の施設として事業規模等を縮小して存続 <input type="checkbox"/> 市町村に移管・譲渡 <input type="checkbox"/> 民営化・民間譲渡 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 昆虫の森は、静的な展示による博物館ではなく、生きた昆虫や広大なフィールドを活用した体験施設であり、身近な里山の自然環境の中で生きものに接し、自然環境と人間の関わりを学ぶことのできる貴重な施設である。 主に子どもを対象として土日に様々な体験プログラムを提供している他、学校教育を補完する理科等の校外学習の場として特別なプログラムを実施している。 この結果、平成28年度は過去最多となる117,950人の入園者があり、県内の約7割の小学校に利用され、幼保園の利用数も開園時の2倍近い伸びをみせている。 県外からの利用者も増えてきており、本県への誘客施設としての役割も果たしている。 </p>
指定管理者制度	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 学校利用が多く教育施設としての役割が大きいことや、「昆虫」という専門性の高いテーマを扱っているため、受け手となる具体的な団体の候補がない。 中学生以下を無料とする等、採算性を追求していないため収支はマイナスである。教育委員会で教育施設として所管する限り大幅な料金改定は難しいため、全面的な利用料金制を採用することはできない。 来園者へのプログラム提供等についてもボランティアの多大な協力を得て実施している現状であり、指定管理者制度を導入することにより人件費削減を図れるとは言い難い。 以上を勘案すると、指定管理者制度の導入は難しいものと考えられる。 </p>
業務等の見直し	<p> <input type="checkbox"/> 見直しの検討が必要なものがある <input checked="" type="checkbox"/> 当面見直しの必要はない </p> <p> <input type="checkbox"/> 平成21年度～24年度の「公共施設のあり方に関する中間報告」における提言を踏まえ、次のような見直しに取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・正規職員の削減（開園時(H18)17人 → (H29)10人） ・管理運営費の削減（各種業務委託の見直し）や、事業の見直し（ふれあい温室、映像トンネル等）による経費の削減（H20 約268百万円 → H29 約100百万円） </p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 最近の取組としては、次のような低予算で利用者増につながる取組を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展フロアの展示を外注せず、職員が中心となって制作。 ・季節展、絵画コンクール、フォトコンテスト等により、空白期間のない展示を実施。 ・人気プログラム（オオクワガタ飼育講座、ホテル観賞会、夜の雑木林の昆虫観察会）等の充実。 ・学校利用説明会、幼保園利用説明会の実施。 ・スタッフブログの早期更新等。 </p>